

男女共同参画社会を考える 8

男女共同参画時代の子育て支援は？

「男女共同参画基本計画」では、男女が共に仕事と家庭・地域生活の両立ができるよう、社会的な子育て支援が重要だとしています。

男女が共に子育てを担う

時代の子育て支援では、「お母さんらしさ・お父さんらしさ」を求める性別役割分担意識や、女性にもともと、母性が備わっており、3歳までは母親が自分で育てないと、子どもがゆがむなどといわれる母性神話、3歳児神話にとらわれない、ジェンダー（※1）に敏感な視点が求められます。そして、孤軍奮闘する母親たちの現状を認識し、親たちのエンパワーメント（※2）を支援していくことが、これからますます重要になってきています。



※1 ジェンダー

ジェンダーとは社会的・文化的に形成された性別のこと。「女／男」というものの「性」という概念を基にした男女の区別です。「女は家事・育児、やさしい、細やか」「男は仕事、強い、責任感がある」などの見方や、服装、髪型、態度、言葉遣い、色使い、進路指導・選択、余暇活動の種類などは、「自然な特性」に基づいていると思われがちです。しかし男女の性差はごく限られており、こうした通念や性別役割分担にとらわれた見方をジェンダー・バイアスと言います。人々の多様性、可能性を制約する「ジェンダー」を点検することが求められています。

「未来を育てる基本のき」から抜粋

※2 エンパワーメント

力をつけること。また、女性が力をつけ、進捗して行動することによって自分たちの置かれた不利な状況を変えていくという考え方。

何に使うの？ 教えて 村の予算 最終回 総務予算について

行政は「サービス産業」ですから、いろんな施設、設備を作り、環境を整え、村民の皆さんのお役に立ったり、喜んでもらうことが必要です。したがって「公共施設」なるものが、いっぱい出来るわけです。

「公共施設」をつくるのには、多額のお金がかかりますが、つくるだけならばいくら多額でも1度だけです。大変でも何とか出来るのですが、建てた物、設備したものにはその後毎年、維持管理・運営費というものがかかってきます。ですから、常に後々のことまでよく考えて慎重にならなければなりません。特にこれからほとんど成長が望めない経済事情や厳しい財政の中では、とても大切なことです。したがって現在ある施設を有効に活用することも大事なことです。

そんなことから、我が村は近年、旧草野小学校体育館を屋内ゲートボール場へ、また、公民館ややすらぎの改修による施設の内容の充実、さらに昔の母子センターを改造して保育所として使うなど、今ある建物の有効利用に務めてきたところです。

そのような中、今「いちばん館」をつくり、そして「陽だまりの家」（シルバー人材センター、NPO等）を建築中です。さらに、飯橋小学校やきこり別館などがこれから出来る予定ですが、十分後々のことを考えながらつくっていかねばと考えています。

村の公共施設の維持管理費がどのくらいかといいますと、1年間に役場庁舎は約1,500万円、幼・小・中学校には約6,700万円かかっています。公民館には1,200万円、老人いこいの家「やすらぎ」は700万円、やまゆり保育所は600万円（人件費除く）村民の森に850万円、ビレッジハウスは370万円（人件費除く）、スポーツ公園は約1,000万円、クリアセンターでのゴミ収集は約3,800万円となっています。このほか村有林管理に2,000万円など、多額の管理費がかかっていることがわかりいただけるでしょう。その他スクールバス、給食センター、いちばん館など、合わせて公共施設の管理運営は、委託料などの人件費を含めると、村全体で約2億7,000万円という経費がかかっています。それでも村の施設整備は他の市町村に比べ、多くはありません。節約に節約を重ねてきたところです。

しかし、これからますます財政が厳しい状況になってきますので、さらに工夫して、維持管理費をできるだけ少なくする努力をしていかなければなりません。また、村民の方の施設有効活用も図っていかねばならないと考えています。これから公共施設の管理運営、シルバー人材センターやNPOなど、多くの村民のご協力をいただきながら最小の経費で運営を進めていく時代に入ってきていると思います。